

「抗微生物薬適正使用の手引き」の改正の方向性について

平成30年4月27日

厚生労働省健康局結核感染症課

1. 背景と現状

薬剤耐性(AMR)対策アクションプランの目標のひとつである抗微生物剤の適正使用を推進するために、2017年6月に学童期以降の急性気道感染症と急性下痢症を対象とした「抗微生物薬適正使用の手引き第一版」(以下「手引き」という。)を発行した。さらに抗微生物薬の適正使用をすすめるためには手引きで扱うべき領域を拡大していく必要がある旨の意見が薬剤耐性(AMR)に関する小委員会において出されていた。

2. 研究班による手引きの対象とすべき領域の考え方

厚生労働科学研究(研究代表者:大曲貴夫)において、今後手引きで扱うべき領域の優先度を、以下の観点から評価した。

1) 国内の学会等から出されているガイドラインで扱われていない感染症領域

抗微生物薬の適正使用については、国内の各学会等において独自にガイドラインが作成されている。既存のガイドラインにおいて扱われていない感染症領域を検索した。

2) 抗微生物薬の不必要使用が多い感染症領域

抗微生物薬の不必要使用の多い感染症領域で手引きを作成することが、抗微生物薬の使用量削減に効果的であることから、各感染症領域における抗微生物薬使用量や不必要使用の割合等について公表された論文や報告書等を検索した。

3. 研究班による評価結果の概要

1) 国内のガイドラインの状況

国内のガイドラインは感染症のほぼ全ての領域に対して作成されていた。
（表）。

2) 抗微生物薬の不必要使用が課題である領域の重大性の評価

抗微生物薬の不必要使用が問題になっている領域について、国内では、急性気道感染症等を除いては十分な検討が行われていないが、諸外国の検討では、急性気道感染症、皮膚軟部組織感染症（特に限局した膿瘍の切開・排膿後）、尿路感染症、歯科処置などが挙げられている。

日本では、急性気道感染症における抗微生物薬の不必要使用について既に手引きにおいて言及されているが、学童期以降に関する記載にとどまっている。

皮膚軟部組織感染症、尿路感染症、歯科処置の領域については微生物薬の不必要使用の状況や頻度についての検討が十分に行われていない。

4. 今後の方向性

○急性気道感染症等において、学童期未満の小児を対象とした手引きの改正を行うこととしたい。

○その他の領域については、日本人における個別の疾患群又は診断毎の抗微生物薬使用量や不必要使用の割合等の検証に関する情報収集の継続、及び日本人における安全性、有効性に関する調査研究を引き続き進めて行くこととしたい。

表 第3回薬剤耐性 (AMR) に関する小委員会の資料より

表. 国内の感染症ガイドライン(主に外来で診療するもの)

疾患	ガイドライン
全体	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
呼吸器感染症	
中耳炎	1) 小児急性中耳炎診療ガイドライン2013年版(日本耳科学会など) 2) 小児滲出性中耳炎診療ガイドライン2015年版(日本耳科学会など) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
肺炎	1) 成人肺炎診療ガイドライン2017(日本呼吸器学会) 2) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン—呼吸器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会) 3) 小児呼吸器感染症診療ガイドライン2017(日本小児呼吸器学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
COPDの増悪	1) COPD(慢性閉塞性肺疾患)診断と治療のためのガイドライン 第4版(日本呼吸器学会) 2) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン—呼吸器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会)
インフルエンザ(季節性)	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン—呼吸器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会) 2) 2017/2018シーズンのインフルエンザ治療指針(日本小児科学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
泌尿生殖器系感染症	
膀胱炎	1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —尿路感染症・男性性器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会) 2) 産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2014(日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会)
急性腎盂腎炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —尿路感染症・男性性器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会)
無症候性細菌尿	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —尿路感染症・男性性器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会)
前立腺炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —尿路感染症・男性性器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会)
精巣上体炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2015 —尿路感染症・男性性器感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会)
骨盤内炎症性疾患(PID)	2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2016(日本性感染症学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) 産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2014(日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会)
細菌性膣炎・カンジダ膣炎	2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2016(日本性感染症学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) 産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2014(日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会)
尿道炎	2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2016(日本性感染症学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2016(日本性感染症学会)
陰部ヘルペス	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) 産婦人科診療ガイドライン—婦人科外来編2014(日本産科婦人科学会・日本産婦人科医会) 2) 性感染症 診断・治療 ガイドライン 2016(日本性感染症学会)
消化器系感染症	
憩室炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会) 1) 大腸憩室症(憩室出血・憩室炎)ガイドライン(ドラフト)(日本消化管学会)
ヘリコバクター除菌	1) H. pylori 感染の診断と治療のガイドライン2016改訂版(日本ヘリコバクター学会)
皮膚軟部組織感染症	
膿痂疹	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
丹毒	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
蜂窩織炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2015(日本感染症学会・日本化学療法学会)
下肢潰瘍の感染	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2016(日本感染症学会・日本化学療法学会)
糖尿病性潰瘍・壊疽	1) 創傷・褥瘡・熱傷ガイドライン3:糖尿病性潰瘍・壊疽ガイドライン(日本皮膚科学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
動物咬傷	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
帯状疱疹	
その他	
菌科膿瘍	1) JAID/JSC 感染症治療ガイドライン 2016—菌性感染症—(日本感染症学会・日本化学療法学会) 2) 菌周病患者における抗菌療法の指針(日本菌周病学会) 3) 術後感染予防抗菌薬適正使用のための実践ガイドライン(日本化学療法学会・日本外科感染症学会) A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)
細菌性結膜炎	A. JAID/JSC感染症治療ガイド2014(日本感染症学会・日本化学療法学会)